

市民も参加し感動舞台 高松でオペラ「かぐや姫」



コミカルかつ、ドラマチックなステージを創造したオペラ「かぐや姫」。中央はかぐや姫役の徳井えりなさん＝アルファあなぶきホール小ホール

県内クラシック界の今年最後の飾るオペラ「かぐや姫」が28日夜、高松市玉藻町のアルファあなぶきホール小ホールで開かれた。地元から集まったキャストや合唱団が出演。時に愛ら

しく、時にドラマチックな音楽がホールを彩り、鮮やかな平安絵巻となって感動のステージを生み出した。県が本年度に始めた「舞台芸術ワークショップ」の成果発表。秋から練習を重

ねてきた10人のキャストをはじめ、小学生や一般の愛好家らでつくる合唱団と管弦楽団を合わせた約120人が舞台に立った。指揮は作品の作曲、台本を手掛けた平井秀明さんが務めた。1幕はかぐや姫に求愛する貴族たちをコミカルに表現。2幕は一転、月に帰らなくてはならない姫の運命を情感豊かに描いた。主役を務めたソプラノの徳井えりなさん(25)＝丸亀市＝の清楚な歌声と演技も切ない涙を誘い、聴かせどころのアリアや二重唱では観客の温かい拍手を浴びた。この日は、満員の約650人が来場した。またロビーでは公演に協力したさぬき市の「かぐや姫カーニバル実行委」が十二単などの展示を行った。